

あげ・こげ・じげじまん

第4回 黒坂のまちあれやこれや

江戸時代はじめから城下町として栄えた黒坂。商業・産業が盛んだった当時を知る長尾巳幸さん（黒坂）のお話を、懐かしい写真を交えながら紹介します。



思い出を語る長尾巳幸さん

長尾さんはおいくつですか
大正4年生まれ、今94歳です。生まれも育ちも黒坂。家が酒屋を始めたのは両親の代からで、それ以前は蚕を飼っていたみたいです。日野郡の製糸業の先駆者だった緒方家のあった黒坂は、昔は養蚕が

盛んだったようですね。
子ども時代は、自分で凧やブチゴマを作って遊んでいました。祖母からは鵜の池の伝説などの昔話も良く聞いていましたね。

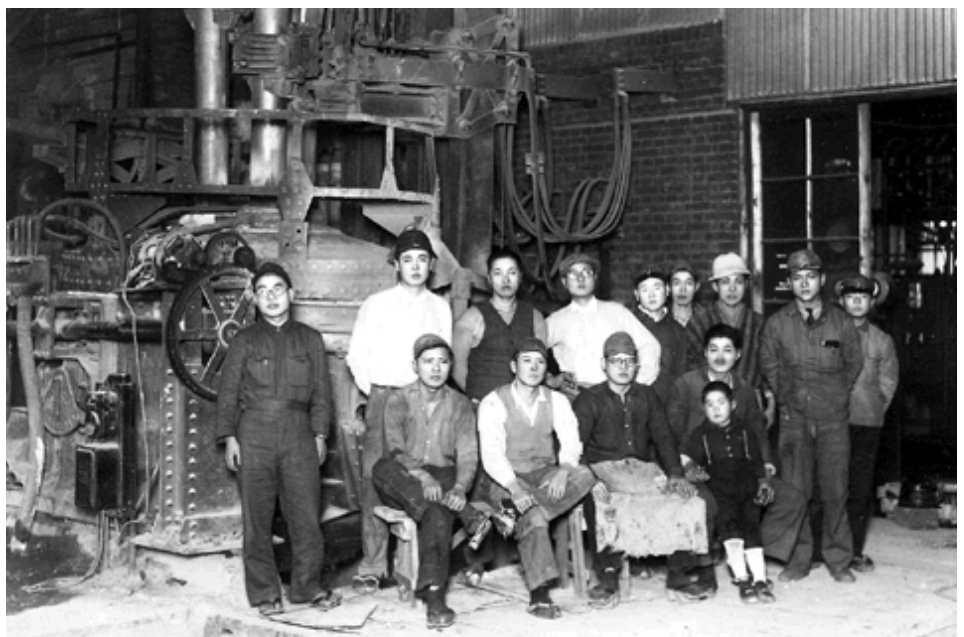
当時の黒坂の様子はどうか

でしたか
今とは全然違ってとてもにぎやかでした。芸者さんがいた時代もありましたし、料理屋、呉服屋、映画館に豆腐屋、魚屋、旅館など何でもありました。

黒坂の映画館は、「日の出館」といって、映画のほか、芝居なども興行していました。私の親が株主だったので、経営にも携わっていました。
当時は、名前のほかに屋号で呼び合っていましたね。近江屋、山口屋、高野屋、三吉屋など。うちは嶋屋で、今でも店の車に描いてありますよ。

以前はどんな仕事をされていたか
県立工業学校（現米子工業高校）で応用化学を勉強し、卒業後は広島県の呉にあった海軍工廠で2年間、飛行機の部品のメッキの仕事をしました。

製鋼所で働かれていたと



大阪特殊製鋼黒坂分工場の様子を写した貴重な写真。右から二人目が長尾さん

聞きましたか
大阪特殊製鋼という会社の黒坂工場が、今の黒坂7区にあり、20代のころそこで働いていました。

工場では、角炉という、いわゆる「たたら」のような仕組みの炉で砂鉄から鉄を作り、

もう一つの電気炉で鉄を精製したものを黒坂駅から鉄道で出荷していました。

工場は24時間稼働、昼夜交替勤務で、私は現場監督のような仕事をしていました。

当時は戦争中で、私も召集されて内地で塹壕掘りをしま



昭和 30 年代の黒坂橋と黒坂の集落。ボンネット型のバスの姿も

した。2年後に除隊してからは製鋼所に戻りました。鉄の需要が多く、黒坂にも一つ工場を建てる計画もあったんですが、終戦によって計画もなくなり、工場も閉鎖されました。

戦後は何をされていますか

たか

家の酒屋の手伝いをしながら、まきを切って問屋に卸したりもしていましたね。

まきはオート三輪に載せて運んでいましたが、黒坂では自動車はまだ珍しかったようで、お医者さんに乗せて行ったりもしました。昔は道路が

てこぼこで通るのに苦労したものです。

滝山公園に店を出されたいたとか

そうですね。昔は滝山への花見客が本場に多く、友達と共同で公園内に小屋を建て、酒類やお菓子、まんじゅうなどを売っていました。当時は弁当を持ってくる人もあまりなかったので結構売れましたよ。

現在は趣味などはありますか

呉にいたころに仲間たちとしていたビリヤードが大好きで、ちょうど健康福祉センターに台があったので、黒坂でもしていた時期がありました。今は俳句ですね。

俳句や川柳は、「わしにもできるのではないか」と思い立って、90歳を過ぎてから始



昭和 40 年代の黒坂歳末市の様子



めたんです。作品を新聞に投稿して、時々新聞に載るのが励みになっています。

黒坂のまちについて

人がどんどん少なくなつて寂しい限りですが、この人たちはお互いが顔見知りです。暮らしやすい。そんないいところのあるまちだと思います。

長尾さん、ありがとうございます



滝山公園の出店で長尾さん

「じげじまん」の語り手を募集しています

昔の行事や地域のしきたり、昔話や田植え唄、わらべ唄などを語っていただける人があれば伺います。

記録は録音して保存します。

詳しくは町図書館（電話 72 1300）までお問合せください。